

第8回江南市市民協働・市民活動推進協議会 会議要旨

日時：平成25年3月14日（木） 午後2時～4時

場所：市民・協働ステーション（地域情報センター2階）

1. 平成24年度の事業について

平成25年度事業への参考にするため、平成24年度に実施された各事業に対する意見・感想などを各委員から報告してもらいました。

《地域まちづくり補助事業》

- ・実施事業に参加することが少なかったため、来年度からは現場へ行くように心掛けたいと思う。
- ・応募が少ないように思う。募集の仕方を考え直した方がよいのではないか。
 - ⇒今回、実際に申請された団体としては4つであったが、相談を受けた団体数としてはさらに4団体あった。もう少し計画を練ってから申請したいと言われた団体や、平成25年度は補助金がなくても活動していけそうだという理由などから、今回は申請が見送られた。来年は、それ以外の団体も増える可能性があるのではないかと考えている。（事務局）
 - ⇒登録団体へ応募書類を2回送った。初めて自治会にも送った。その効果もあり、問合せは例年より多く。申請にはつながらなかったが、制度のPRにはなったと思う。4件の申請数に満足はしていない。募集期間以外でも制度のPRをしていく。（事務局）
- ・カーボンダイエットジャパンでは、市民向け講座が2回開催されているが、なかなか参加者が増えていないのではないかと。もっと小学校と協力して行っていくとよいのではないかと。
 - ⇒2回目の講座開催に当たっては、各小学校を訪問されている。その効果もあって、2回目の講座の参加者は、30人ぐらいの参加者があった。内容も親子を対象にした話であったため、小さなお子さんでも理解しやすい内容であったと思う。（事務局）
- ・参加者数や活動の様子が見えてこない団体もある。また、活動されている現場を見ても、事業目標とされていた内容とは程遠い気がする。協働事業として実際に活動している様子がわかるような写真があれば、報告会で報告してもらいたい。
 - ⇒特定の日時で開催するイベントでないと、実際の活動の様子を見るタイミングは少ないかもしれない。植栽を整備する事業については、季節によっては、



“花”が少し寂しく思えるかもしれない。暑さに強い草花を植えるなどの工夫はされている。(事務局)

⇒公開報告会では、どの団体に対しても、活動の様子がわかるようなプレゼンをお願いしていく。(事務局)

- ・グループだけでなく、いかにして地域の市民を巻き込みながら活動を続けていけるかを考えて行っていく必要があると思う。
- ・「飛高フラワーズ」は過去にも補助事業を実施されており、経験、ノウハウも蓄積されていると思う。国や民間企業による助成事業につなげる流れ(システム)ができるとういと思う。
- ・補助金の申請の仕方の講座や相談会を中間支援NPOに実施してもらってきたが、今後はこの推進協議会のメンバーの中でできるようにしたい。

(企業が補助事業の申請者になることについて)

- ・まちづくりに有益な事業なら企業でもいいと思う。
- ・企業よりも、まず“市民(団体)”への支援を考えるべき。
- ・ケースバイケースで考えたらどうか。
- ・「株式会社」はまずい。連携団体としてなら構わないと思う。
- ・「株式会社」がボランティア活動している場合もある。
- ・企業は、それを目的とした組織ではない。定款にボランティア活動があるとも思えない。あくまでも営利目的。社会貢献が巡り巡って会社の利益になることやイメージアップを期待している。連携団体ならよいが、代表団体となるのは反対。企業がまちづくりを行う場合は、すべて“手弁当”で行うべき。
- ・現在の制度でも企業を連携団体とすることは可能だと思っている。お金は出せないが、自社商品やボランティアとしての参加については積極的に行いたいという企業もある。市民活動支援の基金を作っているところもある。協働事業のパートナーとして関わってもらうことは可能だと思う。
- ・企業が主体となってやるのは、まちづくり補助事業の趣旨とはちょっと違う。
- ・市民・行政・企業のつながりも大事であるが、市の補助事業がずっと続くわけではないということを考えながら活動する必要がある。活動を続けていくためには、少なからず資金が必要不可欠となってくるため、資金や人手などのサポートができるところと協働することが必要になってくる。
- ・補助事業は最長3年間の支援となるため、それ以降市民団体が活動を続けていくためには、他の市民団体とサポートし合うだけではなく、企業を巻き込んで行っていくことも良いことだと思う。
- ・企業と連携して活動をした場合、3年後の行政からの補助がなくなった後でも、途中で中止したら企業のイメージダウンになるため、何とかしてサポートを続けようとし、結果、市民団体の活動しやすい環境になるのではないか。最初の3年

間の補助金がその後のまちづくり活動の呼び水になればよいと思う。

- ・いくら企業がイメージダウンにつながることを心配しても、ボランティアを継続していく思いがなければ、続けていくことは困難であると思う。
- ・過去に厚生病院を連携団体とした事業が採択されている。連携コースであれば、協働で活動してもらってもよいのではないか。



・企業から、単独で申請があったとしても、公費を支払って活動してもらうことには少し抵抗がある。

・主体となって活動されるのは、やはり難しいと思う。しかし、連携コースであれば、パートナーとして関わってもらえることはよいことだと思う。

・まちづくり補助事業への企業の関わり方を議論しているが、一方で江南市では、事業所をまちづくりの担い手と期待しており、現にアダプト活動を行っている企業に対しても軍手等の支給や、ボランティア保険の保険料を負担し、活動を支援している。早急に結論を出す必要にも迫られていないので、じっくり議論をお願いしたい。(事務局)

- ・企業が補助事業の申請者になることについては、改めてこの場で話し合いたい。

《地域まちづくりフォーラム（2月23日 講演とワークショップ）》

- ・豊川市を中心に活動をされている神谷さんの話しがとても興味深く、面白かった。もっと詳しいお話（豊川市にて開催されたイベント、B級グルメイベントの資金源。等々）を聞きたいと思った。
- ・ワークショップでどんなイベントをやりたいか話し合ったが、イベントだけが市民活動の活性化ではないと思う。その日だけの“花火”に終わってはいけない。
- ・イベントは、市民を巻き込むための方法の1つであると思う。そこでNPOやボランティアの活動を行うことにより、今まで興味はあったが実際に活動をされていなかった方などに火がつき、活動を始めるきっかけになる可能性がある。さらに、江南市で開催することにより、市内のみんなを巻き込んだ活動を行うことができる。

(中間支援組織について)

- ・中間支援組織についての解説を江南市地域まちづくりフォーラムの中でしていただいたことがよかった。
- ・何かあったときに、市民活動団体同士がすぐにつながり、助け合えるようになることが、江南市において必要になってくると思う。

- ・団体が何かあったときや、新しい提案をしたとき、その方向性を支援してほしい。
- ・前年度の予算編成時期までに事業の計画を立てた上で市に相談すれば、実現できるようにサポートしてもらえらることもあると思う。
- ・本当に良い事業なら、市は乗ってくれる。
- ・市を市民活動団体同士でサポートし合い、新しい事業を実現できるのが理想であると思う。



・サポートの仕方にも色々あると思う。例えば、広報において宣伝をしてもらう。資金面でのことを相談し、補助金申請ができそうなところ（制度）を紹介してもらうなど。

・環境関係の活動を行っているが、最初は行政に相談してもなかなかサポートを得られなかったが、6～7年継続して活動を

続けていたところ、補助金がもらえた。やはり、実績がないと、なかなか動いてもらえない。

- ・環境関係は、社会状況が変わったという要因もあるかもしれない。
- ・実際活動していくにはお金や人手不足といった問題がある。この部分がうまくいけば、他とつながり、サポートし合えるようになるのではないか。
- ・行政でなく、市民—この推進協議会委員など—で補助事業の相談を受けるぐらいにならないと。
- ・江南市の補助制度も、他の制度と同様に、一定の期間や補助額に上限がある。この次の段階の手段を紹介できると、活動が継続していく。

《情報誌「みんなのパレット」》

- ・現在はA3、1枚（4ページ）であるが、今後はページを増やさないと困るぐらい、掲載記事を充実させるよう頑張りたいと思う。

《絆づくり江南実行委員会》

- ・今後も継続的に「絆カフェ」を開催したい。
- ・実行委員の仲間だけでなく、いろんな団体の人を巻き込むべき。
- ・そもそも実行委員会のことを知ってもらえないと、その事業の中へもなかなか入ってきてもらえない。
- ・この実行委員会が、きちんと機能し、みんなが参加する会になっていくことで、横のつながりができ、江南市の市民活動が活性化していくと思う。
- ・例えば、環境について、子育てについてなどといったテーマを絞って話し合っていくようにしてみてもどうか。

- ・現在、実行委員会では、“健康”についてテーマを絞り、これからそれに関係する団体と関わりを持てるような場作りを考えている。また、実行委員が、団体同士をつなげていける役目（コーディネーター）を果たせるように取り組んでいこうと考えている。
- ・実行委員会のミッションが、実現されることを楽しみにしつつ、期待しています。
- ・皆さんの力が集まると、それが大きな力になる。私も努力していきます。

＊社会福祉協議会の伊藤委員より、先日開催されました「ふくしまつり」への絆づくりカフェ出展のお礼と「江南市の地域福祉活動事例集」の紹介がありました。

2. 市民・協働ステーションについて

＊前回に引き続き、齋藤委員の方から今後の話し合いの方向性をお話しいただきました。

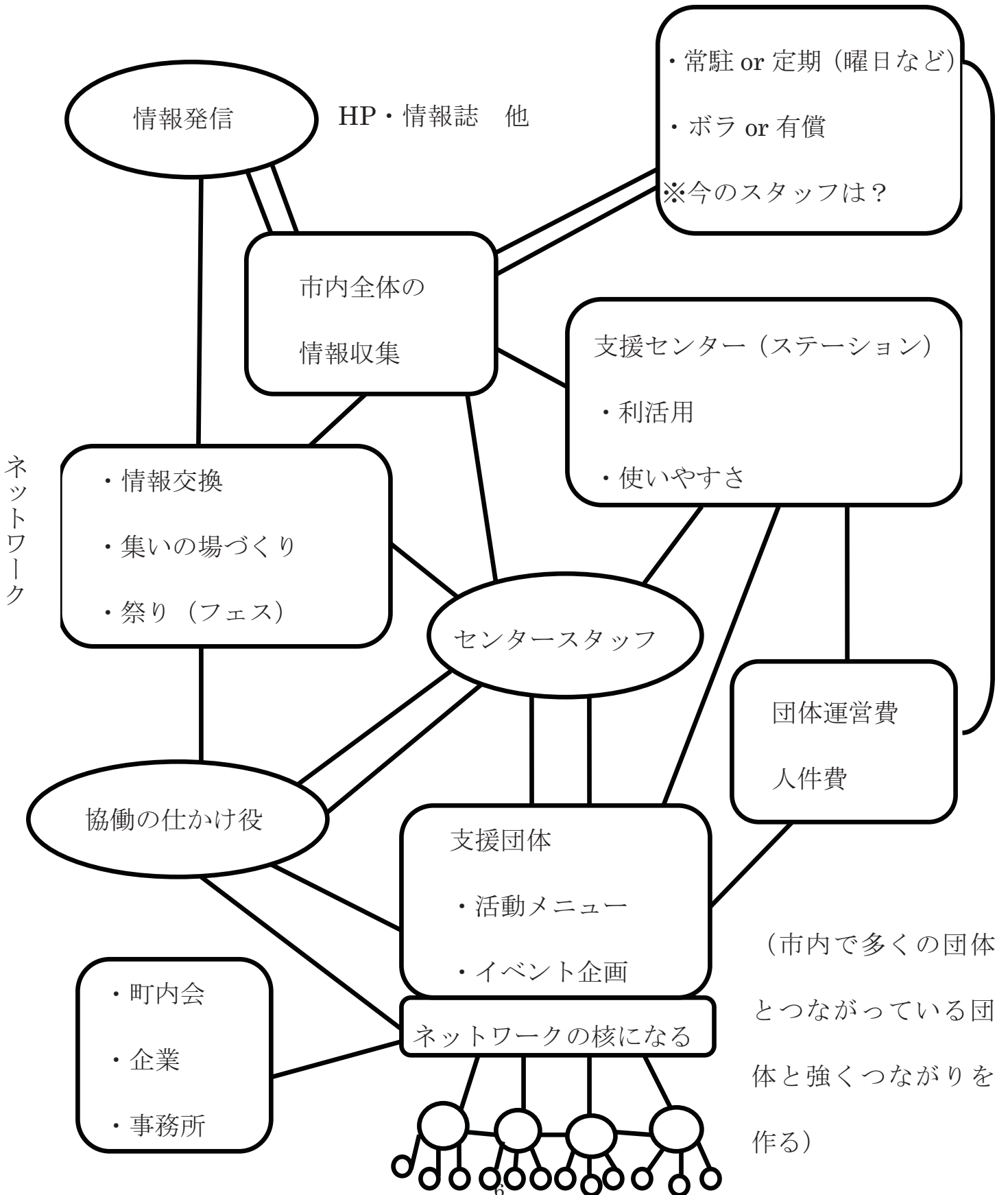
・今後も、継続して話し合うことが確認されました。



【その他】

- ・第9回の市民協働・市民活動推進協議会の開催予定は、平成25年6月～7月です。日時等が決まりましたらホームページでお知らせします。

【市民・協働ステーションについてのワークショップ】



つながりの中心の強化とネットワーク (横のつながり) づくり

考えること

- ・毎週 1 日ボラスタッフ

何をしたら良いか？（具体的に）



どう宣伝するか？（文面）

- ・どうしたら、より多くの市内の団体（活動者）が集うか？

又、集って何をするのか？

- ・対談やリレートーク（コラム）を開始したいが、

どこから、どんなテーマが良いか？ →企画案



- ・「みんなのパレット」のトップページ案



- ・ステーションであるといいと思うイベントを考える

- ・協働の「仕かけ」について具体的に！！（支援先・事例）



実現

つながりたい？（協働の必要性）

- ・つながることが目的では×
- ・協働の理念への「共感」が大切
- ・各団体の各々の思いや活動は違う
- ・各団体や地域の課題の解決のため、他との協働も方法のひとつ
- ・何のためにつながり協働するのか？
→これを各々考え共有し、相談し合う。

協働という理念の宣伝より個別案件への支援活動と事例収集と発信